

## 地理情報科学をどのようにして学ぶか ESRI社のインターンシップ制度をもとに

## How to learn GISci?: Based on internship program at ESRI Inc.

# 水谷 千亜紀 [1]

# Chiaki Mizutani[1]

[1] 筑波大・空間情報科学分野

[1] Division of SIS, Univ. of Tsukuba

<http://giswin.geo.tsukuba.ac.jp/sis/>

現在、日本の大学における地理情報科学の教授法が熱く議論されており、地理情報科学教育を体系的に行う標準カリキュラムの策定がすすめられている(岡部 2006)。地理情報科学に関連する教育課程では、GISを用いた演習形式の講義や卒業論文などへの取り組みから Geographic Information Systems (以下、GIS とする)の操作方法とそれを支える Geographic Information Science (以下、GISci とする)との修得を促している。本稿ではこのような国内の状況を受け、GISにおけるデファクトスタンダードである ArcGIS の開発会社・Environmental System Research Institute Inc. (以下 ESRI 社とする)でのインターンシップを通じて、受講者がどのように地理情報科学を学び、修得に向けていかに取り組んだかを報告する。

アメリカ合衆国に本社を置く ESRI 社は GIS 分野においてシェア 34% を誇っており、他社の追随を許さないリーディングカンパニーである(福井 2005)。市場での ArcGIS シリーズの優位性が示すように、世界中にユーザーを有する ESRI 社は、GIS に関連する書籍の出版や参加者が数千人を越えるユーザーカンファレンスの開催などを通じて、GIS ならびに、GISci の普及に力を入れている。例えば ESRI 社 HP に設けられた Virtual Campus では、さまざまな GIS に関する知識と操作方法を修得することができる。合衆国の研修所での講習もあるが、日本に住む学生にとっては e-learning のほうが手近である。講習には有償のものもあるが、無償のものでも基本的な操作や概念を学ぶことができる。講習内容を概観すると ESRI 社は、単に ArcGIS の操作方法を伝えようとするだけでなく、操作の意味や技術に関する理解を促していることが伺える。つまり道具としての GIS だけではなく、それを支える技術的・理論的な背景である GISci も含めた教育が必要だと考えているのだろう。

インターンシップでは、講習と実際の業務に関連した課題に取り組む。実務に携わる専門家による講習や業務体験は、受講者が地理情報科学を学ぶ上で、非常によい刺激となるだろう。ポスター発表では ESRI 社でのインターンシップを紹介し、講習や課題への取り組みなどを通じた受講者の習熟度を持って結論としたい。

## 【参考文献】

岡部篤行 2006. 地理情報科学の教育と地理学. *E-journal GEO* 1: 67-74.福井弘道 2005. 社会基盤構成ツールとしての GIS. *ESTRELA* 140: 2-11.